

読書科の経緯等

読書科の経緯

平成21年度

読む時間の確保だけでなく、質と量を高め、活用力、探究力を育成するという基本方針を決定する。

平成22年度

「読解力の育成」を図るため、年間1000分間の朝読書を実施する。

平成23年度

文部科学省「教育課程特例校」の指定を受ける。

平成26年度

「読書科」の完全実施を開始する。

本区の児童・生徒の現状

読書科開始後の傾向(全国学力・学習状況調査)

質問内容	小学校	中学校
読書が好きですか	△	△
新聞を読んでいるか	▼	▼
自分の考えを深め、広げているか	△	△
自分の考えを文章にするのは難しいか	△	△
自分の考えを発表する機会があるか	△	△
自分の考えを発表することが得意か	△	△
探究的な学習に取り組んでいるか	△	△
夢や希望をもっているか	▼	▼
人の役に立つ人間になりたいか	△	△
ニュースに関心があるか	△	△
総合的な学習の時間は役に立つか	△	△
社会の問題や出来事に関心はあるか	△	△

※「△」が向上 「▼」低下

これまでの成果と課題

- ✦ 読書が好きなお子が増えたという成果が上がっている一方で、創設当初の趣旨・理念が十分に達成されていない状況も見られる。
- ✦ 小中学校それぞれにおいて、同様の学習活動が行われているなど、小学校と中学校とで教育内容に重複が見られる。
- ✦ 各教科等との関連の中で、内容が重複するものがあり、読書科の指導のねらいがあいまいとなっている。

Q & A

各教科等との関連をどのように考えたらよいのでしょうか。

学習指導要領には、各教科等それぞれに固有の目標と内容が示されています。

読書科と各教科等との違いを十分に理解した上で、学習活動を適切に展開していく必要があります。そのため、朝読書等を他教科で行うべき内容の指導時間にあてたり、他教科の発展的な内容を読書科で扱ったりすることはふさわしくありません。

また、「国語辞典の使い方」など指導内容が重複する場合については、国語科の目標の実現に向けて行うのであれば、国語科として実施し、読書を通じた探究的な学習の関連として実施するのであれば、読書科として実施してください。

さらに、本区では、総合的な学習の時間の内容の一部を読書科で扱うことを原則としているので、総合的な学習の時間の関連について考慮することも必要です。

朝読書等を除くと、読書科の時間は、年間十数時間になります。その時間だけで、読書科の目標を達成できるのでしょうか。

読書科の目標は読書科のみで達成できるものではありません。各教科等で学んだ[知識及び技能]や[思考力、判断力、表現力等]を読書科で活用したり、読書科で学習したことを他教科で活用したりすることにより達成できるようにします。

読書科ノートは必ず使用しなければならないのですか。

読書科ノートは先生方が読書科の指導内容を具体的にイメージしやすいように、参考教材として作成したものです。本ノートを参考にして、各学校の児童・生徒の実態に応じた創意・工夫を行い、9年間を見通した指導を行ってください。

小学校第6学年における「調べる学習コンクールへの出品」や中学校第3学年における「卒業研究の提出」は、行わなければならないのですか。

「調べる学習コンクールへの出品」や「卒業研究の提出」は、あくまでも例です。各学校においては、児童・生徒の意欲を最大限に引き出せるよう、創意工夫のある成果物を定め、指導を行ってください。

読書科の 更なる充実に向けて

文部科学省教育課程特例校指定

江戸川区立小中学校では、平成24年度から読書科を実施しています。

このたび、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、読書科指導指針の見直しを行いました。改訂した指針は、各学校が作成・実施する指導計画の基準を大綱的に定めたものです。

各学校においては、本指導指針に基づき創意工夫を重ね、家庭や地域社会と協力して、読書科の更なる充実を図ることをお願いします。

生涯にわたって主体的に学び続ける資質・能力を育成



「読書科指導指針」改訂のポイント

- ✦ 目標の改善
生涯にわたって主体的に学び続けていく資質・能力の育成
- ✦ 内容の改善
より具体的で明確な内容に変更
(「解説」及び「読書科ノート」の作成・配布)
- ✦ 学習の系統性の重視
「基礎期」「活用期」「発展期」において、螺旋的、反復的に資質・能力を育成

江戸川区立小中学校 読書科

目 標

【目指す子ども像】主体的に読む子ども 問い続ける子ども

読書における見方・考え方*を働かせ、読書を通じた探究的な学習を通して、生涯にわたって主体的に学び続けていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

<※読書における見方・考え方…読書を通じて、人や社会、自然に関わる様々な事象を多様な角度から捉え、自己の考えや生き方、実社会、実生活と関連付けること。>

- (1) 読書から生きて働く知識を習得するとともに、資料の収集の仕方、記録の取り方を身に付けることができるようにする。
- (2) 問題を発見し、読書を通して集めた情報を整理・分析して解決するとともに、自らの考えをまとめ・表現することができるようにする。
- (3) 読書及び読書を通じた探究的な学習の良さを認識し、主体的に取り組むとともに、社会の中で積極的に学び続けていこうとする態度を養う。



内 容



【知識及び技能】



段階	基礎期 (小学校第1～4学年)	活用期 (小学校第5学年～中学校第1学年)	発展期 (中学校第2・3学年)
内容項目	自分で選んだ本を読み、その内容を理解するとともに、簡単な資料の収集の仕方や記録の取り方を身に付けることができるよう次の事項を指導する。	目的に応じた本を読み、その内容を理解するとともに、目的に応じた資料の収集の仕方や記録の取り方を身に付けることができるよう次の事項を指導する。	目的に応じた本を読み、知識を習得するとともに、適切な資料の収集の仕方や問題解決に向けた記録の取り方を身に付けることができるよう次の事項を指導する。
ア 読書の仕方 (読書・交流)	自分で選んだ本を読み、その内容について発表したり紹介したりすることができるよう理解すること。	目的に応じた本を読み、その内容について話し合ったり感想を交流したりできるよう理解すること。	目的に応じた本を読み、その内容について話し合ったり感想を交流したりして、知識を習得すること。
イ 情報の収集 (調べる・情報整理)	疑問の解決のために、図書館資料から、情報を収集すること。	問題の解決のために、図書館資料から、情報を収集すること。	問題の解決のために、情報を効果的に収集すること。
ウ 記録の取り方 (引用・要約)	身近な生活に関する図書館資料を読み、必要な情報を抜き出すこと。	様々な図書館資料を読み、目的に応じて必要な情報を抜き出し、記録すること。	人や社会、自然に関する資料を読み、問題の発見・解決に向けて必要な情報を抜き出し、記録すること。



【思考力、判断力、表現力等】



段階	基礎期 (小学校第1～4学年)	活用期 (小学校第5学年～中学校第1学年)	発展期 (中学校第2・3学年)
内容項目	身近な生活の中から疑問を見付け、その解決に向けて情報を比較・分類するとともに、自分の考えを他者に伝えることができるよう次の事項を指導する。	身近な人や社会、自然に関わる問題を見付け、その解決に向けて情報を整理・分析するとともに、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現できるよう次の事項を指導する。	人や社会、自然に関わる問題を見付け、その解決に向けて情報を効果的に整理・分析するとともに、自分の考えを論理的にまとめ、表現できるよう次の事項を指導する。
ア 問題の発見	身近な生活と結び付けて、調べたいことを見付けること。	身近な人や社会、自然に関わる様々な事象を自分の考えや経験等と関連付け、問題を見付けること。	人や社会、自然に関わる様々な事象から、探究するにふさわしい問題を見付けること。
イ 問題の解決	疑問の解決のために、情報を比較・分類すること。	問題の解決のために、収集した情報を整理・分析すること。	問題の解決のために、収集した情報を効果的に整理・分析すること。
ウ まとめ・表現	自分の考えをもち、他者に伝えること。	自分の考えを分かりやすくまとめ、表現すること。	自分の考えを論理的にまとめ、表現すること。

読書科 年間標準時数

時間	校種	小学校の各学年	中学校の各学年
朝読書等		23単位時間程度 (1050分程度)	21単位時間程度 (1050分程度)
1単位時間で行う授業		12単位時間程度	14単位時間程度
合計		35単位時間程度	35単位時間程度

読書科を支える教材・環境

参考教材「読書科ノート」

- 考えるための手法や学習カードの例示
- 調べる学習コンクール、卒業研究などの取組の例示

校内体制【例】

- 校内委員会の設置
- 読書科推進リーダーの指名
- 児童会・生徒会の活用

環境整備

- 学校図書館の整備
 - ・学校図書館施設整備指針
 - ・学校図書館図書標準
 - ・図書配分比率
 - ・図書廃棄基準

